○　学校評価（職員）

【与論高等学校の教育目標と重点目標】

（目標の実現状況）

・生徒の１学期初めの頃と現在を比較するとあらゆる面で成長していると感じる部分があるので，おおむね実現できているのではないか。
・目標の実現に向けて全職員が努力している。
・心身ともに健康で豊かな人間性は，確立されている。課題研究等の活動を熱心に行っている。
・４つの校訓に沿って単元ごとに目標を設定し，予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育めるよう授業を工夫している。授業以外でも，特別活動や部活動などを通して，より一層の充実を図っていく必要がある。ポイントである主体性を育むために，生徒一人一人の心に届く指導を心掛けている。
・色々なことに主体的に取り組めている生徒とそうでない生徒で**二極化が進んでいる**ように思われる。
・授業やゆんぬの時間を通して大きく成長したと感じられる一方で，**上位層と下位層の差が開いた**と感じる。
・単元シラバスに校訓の項目を設定するなどして，主体的に生き抜く力を育成しようとしており，育まれている。**（複数回答あり）**
・予測が困難な時代を生き抜く力を養うために，ＩＣＴの利活用を推進したり優れた外部人材を招聘したりするなど，適切な教育を実践できている。
・主体的に生き抜く力とはどのような力か，個々の強みを活かしてほしい
・目標は，校長が機会あるごとに言及していることもあり，全職員に浸透しており，それに伴って実現に向けて努力している。達成度の差はある。

【豊かな人間性】

（成果）

・ゆんぬや職業講話・インターンシップ・アルバイト等を通して地域の方と触れあう場面が多くあることで**与論島の郷土・文化を愛し尊重する態度ができていた**ように感じる。
・豊かな自然に囲まれた与論島で，健やかに，のびやかに成長していると感じる。大人に対しても臆せずに自分の考えを伝えられる生徒が多い。
・総探の取組などにより郷土に深く関心を持つきっかけが多く，伝統や文化を尊重する心や態度が培われている。**（複数回答あり）**
・総合的な探究の時間や海洋教育を通して，**与論島を愛し，貢献したいという生徒**を育成している。
・いじめに関するアンケートなどは適切に実施され，その後の対応もできている。

（課題）

・人権に対する深い知識という部分は，あまり多様な方々と触れあったり見かけたりする機会の少ない与論高校生には不足している部分かもしれない。
・自他に寛容である反面，自分を律する厳しさに欠ける場面も時に見受けられる。
・LHRや総合的な探究の時間などを関連させながら，さらに発展させていく必要がある。
・もともと人間性豊かな生徒が多いと思われるが，**「うたれ弱い」面**をどのように克服していくかが課題と感じる。
・与論島以外の文化や自然についても触れられる機会が少ない。
・普段生活しているコミュニティが小さいので，島立した後に新しい関係を築いていけるか。**批判的な聞き方や客観的な分析**ができるようになるか。
・**批判的思考を高め，体力面や粘り強さをより一層付けていく**必要を感じる。
・与論の文化や歴史を学んだりする機会が少ないように感じる。
・与論町と連携した活動は充実しているが，与論以外の地域との連携が可能になると相対的に地域や多様性への理解が深まると感じる。**（複数回答あり）**
・狭い島内で**固定化された人間関係を打破できていない**。**（複数回答あり）**
・人権教育の機会に乏しい。
・学校外での活動への参加を支援することで，主体性と協働性を磨く手立てを講じる必要がある。

【健康・体力】

（成果）

・全体的に健康管理がしっかりできていた。
・登校指導，ホームルーム，保健体育授業等での成果がでてきている。
・体育祭等の行事やほけんだよりの配布により，スポーツの楽しさや健康の重要性は意識できている。
・自主的に感染症対策を行う気風がある。**（複数回答あり）**
・生徒からも８時15分着席完了を呼びかける動きが出ていてよい方向に進んでいると感じる。
・部活動の参加率は良く，保健部からも注意喚起を含む適切な情報提供がなされている。小中学校で学級・学校閉鎖になっていても，高校ではそこまで感染症が流行していないのは，生徒の自衛はもちろんだが，先生方のご尽力も大きいと思う。
・保健委員会の取組もあり，健康管理に努めていた。

（課題）

・**８：１５ギリギリに登校する生徒**もいる。時間に余裕を持って行動できるようになると忘れ物等も減ると思う。
・**固定化された生徒が８時１５分の着席完了に間に合っていない**。粘り強く指導する必要がある。**（複数回答あり）**
・感染症が一時期蔓延したことがあるので（６月ごろ），蔓延する前の予防を促す。
・基本的な生活習慣の定着ができていない生徒がいる。（同様の回答あり）
・**運動部を含め，退部するものが多く**，体を動かす機会が減少しているのではないかと感じる。
・体力が不足している。
・体調不良で時々休む生徒がおり，感染症の蔓延時や大きな行事の後に体調を崩す傾向があり，自己の健康管理が不十分な生徒がいる。
・感染症等への危機感が薄れてきているように感じる。

【何が出来るようになるか（学校教育の基本）】

（成果）

・個人差があるが学ぶことの意義や協働性の重要さを理解し積極的な学校生活を送っている。特にゆんぬの活動において探究的な態度や多様な人々との協働が見られる。
・以前よりも意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。**単元テストに向けて時間をかけて丁寧に学習する姿勢が芽生え**ている。
・グループ単位での課題研究は，積極的に行っている。**（複数同様の回答あり）**
・クラス一丸となって学習活動に取り組み，積極的に教科学習しているように感じる。
・探究的な活動にも積極的に取り組んでいる。
・難しいことについても周りの人と協働しながら粘り強く学習に取り組んでいる。
・生きて働く知識・技術の獲得を目的に掲げ授業改善を行っている。
・「なぜ」について考えることができるようになってきた。
・本校のビジョン，スクールミッション及びポリシーが明確であり，それを実現する為の授業における単元シラバスシステムが整備されている。

（課題）

・他者とうまくコミュニケーションがとれない生徒や学ぶことに消極的かつ，諦めている生徒もみられる。先導すべき生徒を早い時期に見極め，継続的にフォローする。
・**既習事項のうち未定着のものがそのまま放置されている**。スタディサプリ等の**自学教材をもっと活用**してほしい。
・学ぶ意義を押さえて，学問に打ち込むことに個人差がある。
・一部，グループの協働になじめない生徒がいるので，コミュニケーションが苦手な生徒への工夫や配慮が必要と感じる。
・ワンランク上を目指す生徒を増加させる。
・自分の頭で考えず，すぐに正解を求めようとする。**（複数回答あり）**
・**基礎学力の定着。学習習慣の確立**。
・取り組む土台は準備したが，全ての職員・生徒が有効に使っているわけではない。
・多様な人々と協働ができていない。いつもと同じクラスメイトに頼りがちである。

・助言をしても聞き入れない生徒がいる。対話の姿勢を身に付ける。

【何が身に付いたか（学習評価を通じた学習指導の改善）】

（成果）

・単元ごとの理解度がしやすいことで教諭の補充指導もしやすいし，**生徒自身も対策をとりやすかった**のではないか。**（複数回答あり）**
・**教師は見通しを持って単元の指導を行える**ようになり，**生徒も見通しを持って学習を進められる**ようになりつつある。**（複数回答あり）**
・単元シラバスや学習評価によって，**生徒が見通しを持って学習に取り組める**ようになった。
・評価材料を分析し，生徒の特性や苦手なことを読み取り，次の授業に活かすことで，生徒にあった方法で授業を展開できている。
・学年が進むにつれ，意欲的に取り組む分野の幅は広がっているように思う。
・身につけるべきことがはっきりわかるので，学習に取り組みやすい。
・単元シラバスやテストそして評価を通し教員自身も改めて学習指導の在り方を考え改善に繋げことが出来た。
・ペーパーテストに限らない単元テストの実施ができている。
・一部学習に関して授業外でも議論する姿勢が身についたように思う。
・単元ごとのシラバスでの継続的な評価やキャリアパスポートによるポートフォリオを使って客観的に何がどのくらい身についているか把握できる。
・自分の課題に気づき取り組む姿勢が身についている。
・１つの単元ごとにテストをしたり，必要に応じて範囲を分割したりして評価ができるため，生徒にとっては１回における負担が少ないと思う。

（課題）

・補習授業や個別指導・授業のブラッシュアップなどのための時間確保。
・単元毎の学習の積み重ねが学力向上（模試に対応できる力の育成）につながっているという実感が持てない。
・**教員が，単元テストづくりに追われ，疲弊する**こと。そもそも，目的であったことの一つに，生徒による学習の改善があった。しかし，生徒が，学習の改善を行っているかは，不明である。
・信頼性と妥当性のある評価基準を作成し，できる評価・続けられる評価を目指す。
・**単元テスト作成などに追われ教員に余裕がない**ため，十分な振り返りなどができていない。教員の余裕を確保する工夫が早急に必要である。
・学習指導要領を基にした単元設定について，生徒にも教員にも**負担にならない綿密なルール作りが必要**である。
・現状に大きな問題がないため，「よりよくなるためには」という視点で物事を見ていない生徒が多いように思う。批判的な思考にも絡んでくることで大人にとっても難しいことだとは思うが…
・評価結果を生徒にフィードバックする（単元テストを返却する）時期が遅くなる場合があり，効果的な活用をさせられない。
・現行の単元シラバスやテスト及び評価のシステムは**非常に煩雑で時間もかかる**。生徒と直に向き合う時間を作れるよう改善が必要ではないか。
・生徒が単元評価を受けて，自主的な学習につなげていくところまでサポートができていない。
・理解している生徒どうしでの議論のため，理解できていない生徒をどのようにしてその議論に含めることができるか
・特に下位層の生徒には，具体的な指示や課題が必要だと感じる。
・下位層にばかり時間を割いてしまい，上位層を伸ばすことが難しい。
・粘り強く取り組んだり，長期的に計画して実行したりする力が足りない。
・自身の学習を振り返る過程において，反省を次に活かせている生徒は多くないように感じる。
・生徒の様子を観察してフィードバックを行いながら指導を行うことで，単元を学習した後は理解度・定着度も高いが，過去に扱った内容が極端に低くなる。評価に向けて理解できるようにすることは最低限のことだが，その一歩先の状況にもっていく必要がある。

【生徒の発達をどのように支援するか(配慮を必要とする生徒への指導)】

(成果)

・不登校傾向の生徒が数名出たが，SC・養護教諭・担任がしっかり連携していた。
・生徒と養護教諭との信頼関係が構築されており，生徒は保健室を憩いの場にしながらうまく精神衛生を保っている。
・生徒と同じ学年に所属している場合は，生徒の状況がよく分かる。
・職員間の情報共有とチームによる生徒支援ができている。**(複数回答あり)**
・ＩＣＴや図の提示を普段から行う等，配慮はできていると感じる。
・毎週学年会があり，情報の共有と配慮・指導の方向性はよく共有できている。
・現在，所属クラスがある程度生徒の居場所として機能しているのではないか。
・カウンセラーの助言によって，病院などの外部機関との連携もしやすかった。
・保健管理を全職員が確認できるため，生徒の状況を共有できている。

(課題)

・人権教育や心の健康教育をしていくこと。
・生徒の心の問題にどこまで踏み込んでいくかが課題である。
・多様な生徒がいるので，保健室や外部の機関との連携を密にとり，情報の共有をこまめに行う必要がある。
・**個に応じた指導を推進し，チームとして対応** できるようにしていく。**(複数あり)**
・本校は部屋数が限られているが，生徒学習室（不登校生の一時避難場所のような部屋）が必要と感じる。
・各教科で，生徒について気づいたこと等を学校全体で共有したり，学校で行っている生徒のアンケート等を学校全体で共有したりする。
・**不登校傾向の生徒が単元テストを受けきれなくて単位認定がされない**→それが重荷になって一層学校に行けないという**負のスパイラルに陥る** 場合があるのではないか。
・島内の関係機関との連携や保護者支援について困難を感じる。**(複数回答あり)**
・単元シラバスや単元テストそして評価等の**業務負担増加の影響で生徒と向き合う時間の確保が以前より難しく**なっている。生徒の方も職員の忙しさを感じて相談しにくい雰囲気もあるのではないか。
・生徒・保護者ともに病識がない場合は，外部機関との連携が提案することが難しい。
・生徒に対して強制するのか，生徒からの主体性を待ってから行うのか，ベストな手段が思いつかない。
・個（正担任，教科担任）のマンパワーだけでなく組織の力がもっとあるべきでは。
・リマインド機能などを使って課題の提出を促すなど。(そこまで支援ができるかも課題)

【目指す生徒の姿】

(成果)

・与論島の自然・伝統・文化を愛し尊重する生徒が育成できている。**(複数回答あり)**
・それぞれが進路目標を設定し，その実現に向けて少しずつ緊張感を高めながら努力を積み重ねている。
・社会に適応できる逞しい生徒を育てられるようにしている。少しずつ対応できるようになってきた。
・授業における共同活動等を通して，互いに認め合ったりするなど，**人権に対して深い理解はできている**ように感じる。**(複数回答あり)**
・主体性を持って行動する生徒は増えたと感じる。
・ゆんぬの時間を中心に，生徒ひとりひとりが与論町の守りたいところやより良くしたいところを考えることができている。
・本校の重点目標や本校のビジョンが明確に示されている。

(課題)

・**人権に対する深い知識**。
・具体的に何をどのくらいやるべきなのかを具体的にイメージさせること。
・個人差があるので個に応じた指導，きめ細やかな指導，粘り強い指導が必要。
・学習意欲については，個人差が大きいと感じる。
・ゆんぬの時間を通して，与論島以外の自然や伝統等の理解を深める必要がある。

・計画を立てたり，起こりえることを想定したりして，事前に準備する力に欠ける。
・直すべき習慣を改善できず，現状維持から脱することができない。
・生徒によって温度差がある。意欲を持てない生徒への仕掛けが必要。**（複数あり）**
・自走とは何かをそもそも理解していないので，生徒それぞれの自走の姿を確立させること。
・自ら学ぶ意欲をもつ生徒・意欲をもてない**生徒の二極化**。
・目指す生徒の姿を保護者や地域ともっと共有すべきだ。
・「社会の変化への適応力」を与論島内で育成するのは難しいと感じる。

【何を学ぶか】

（成果）
・限られた単位数の中で，自分の教科の視点からだけでなく，全体のことを考えて何が生徒にとって最善のバランスなのかを議論することができた。
・海洋教育などにより，地域や社会への関心をもつ生徒が増えていると思う。
・言語能力については，**話し合い活動やプレゼンテーション等により，育成できている**と感じる。**（複数回答あり）**
・定期的に授業の振り返りを行い，その内容を分析して，生徒の実態に合った授業作りを実践できている。**（複数回答あり）**
・生徒が自学自習に取り組む時間は十分に確保されている。
・海洋教育は与論島という地域の特性と教育がマッチしていて良い取り組みだと思う。
・何が出来るようになるかを意識し目標を明確にした上で教育課程の編成及び授業計画に取り組めた。
・放課後の時間に余裕があるため，生徒たちが放課後の時間をそれぞれデザインする余地がある。
・学年が上がるにつれ自分に必要なものを理解し考えられている
・地域と協働した海洋教育の推進。シラバス等をとおして各教科の目指す資質・能力が明確に示されている。**（複数回答あり）**

（課題）
・伝わりやすい言い方や言葉を選び表現する力をつける。
・まだどのような教育課程がベストなのかという結論が出ていない。
・生徒の実態に応じた授業デザインの充実が求められる。
・学んだ内容に対する意見などを的確に言語化，表現できるような支援の工夫。
・振り返りの方法などを校内で共有し，各教科でより生徒に実態に合った授業を実践する。**（複数回答あり）**
・**自学自習をさせるための仕掛けが不十分** である。
・新課程になり，教育課程の見直しを継続する必要がある。
・何が出来るようになるかを考え授業を組み立てると以前に比べ必要時間数が大幅に増えた。**各教科で求める授業時間の確保が課題** か。
・何ができるようになりたいかが明確化されていないので，とりあえずやらされているからやっている状況になっている
・大学入試を考えると**教育課程の科目を検討する必要**がある。
・聞き手を意識した言葉遣いや身振り手振りが少なく，音読感が強い。

【どのように学ぶか（教育課程の実施）】

（成果）
・教科等における探究的な学びになるよう授業の工夫をしてきた。以前のスタイルとは違った**タブレットを多く使うことや話合いの場面を増やした授業** ができているし，生徒達もそういった授業に慣れてきて**まとめ方や発表がうまくなってきている**ように感じる。**（複数回答あり）**
・アウトプットの機会を授業の中で増やした。生徒たちは以前よりもスムーズに準備ができるようになり，発表することの心理的ハードルも低くなっていると感じる。
・主体的に学ぼうとする生徒が増えていると思われる。
・学習活動において，**他者と協働しながら，探究的な活動に取り組める生徒が多い。**
・生徒が自学自習に取り組む時間は十分に確保されている。
・単元シラバスによって，学びの道程がわかりやすくなっており，指導と評価の一体

化が実現できている。
・放課後の時間に余裕があるため，生徒たちが放課後の時間をそれぞれデザインする余地がある。
・ICTを用いて調べ，関連事項を連鎖的に調べて学ぶことができている。
・地域サポーターなど地域との密な連携。
・生徒の主体性を意識した単元シラバスで授業が展開されている。
・タブレットに資料等を配布することで，自宅学習で学習を補えるように工夫した。

（課題）
・自己添削力を高める。
・勤務時間外に，他教科から急かされて授業を行ったので，授業時間数を増やしてほしい。
・主体的な学びができる生徒とそうでない**生徒の差が大きく**，個に応じた指導が求められる。**（複数回答あり）**
・単元シラバスの意味を理解できていない，もしくは，うまく活用できていない生徒が多数存在することは否めない。単元シラバスの活用が大きな課題と感じる。
・単元シラバスや単元テストのサイクルの運用における**業務の簡素化ができないかを検討**できないか。
・達成するゴールをより明確にすれば効果が上がると感じる。
・主体的な態度や協働的な態度の個人差をなくしていく手立て。

【実施するために何が必要か（指導体制の充実，家庭・地域との連携・協働）】

（成果）
・授業改善と学習評価の工夫・改善ができた。
・先進的な実践例について情報収集し，積極的に取り入れた。
・昨年度から，STEAM教育等の教科横断的な学習の推進に努め，ICT機器を使った授業改善ができている。
・**Find!アクティブラーナーや校内外研修の積極的な活用** により，様々な学習活動や実践ができている。
・外部講師による講演会や座談会に参加する等，社会に参画しようとする意識が高い。
・学校外（大学等関係機関を含む）の連携や教育資源の活用は非常にうまくいっていると感じる。地域サポーターや海洋教育などとの連携体制が確立されているのは教育活動を展開していく中で非常に大きい。**（複数回答あり）**
・授業でICTやスタサプなど，生徒の意欲関心を高められるように使用できている。
・ＴＴによる授業で，授業中の指導が充実した。

（課題）
・自身の授業の振り返りやブラッシュアップ等をするの時間確保。**（複数回答あり）**
・評価の機会や形式を増やしたが，結果的に生徒から負担が増えたと不評だった。**授業アンケート等を実施して，生徒の声を拾うと共に，評価の意義や意図を丁寧に生徒に伝える努力**をさらにすべきだった。
・評価の方法をもっと工夫する必要を感じている。
・地域のいろんな方と高校（職員）がふれあう機会を多くする。
・ICT機器を積極的に使える環境整備と生徒・保護者の理解を得ながら，さらに発展していけるようにする。
・ＩＣＴの活用については，学習活動の内容を吟味した上で活用する。
・与論島の自然や伝統，文化等の地域資源をより一層授業で活用する。
・人の入れ替わりが激しい本校において，教育資源の活用の意義を引き継ぎ，発展させることができるかどうかはこれからの課題になってくると思われる。
・フィールドワークを授業内でもっと容易に実施できるような体制があると良い。手続きのルール化など。
・**学習評価については非常に先進的だと思うが形骸化しているものも一部あり，教員の負担感が強い**。学期末の成績処理についてはSee-Smileをもっと活用できると思う。
・中学校との連携が形だけのものになっているので，もっと意味あるものにするにはどうするか。
・指導と評価の一体化に係る研究の深化。家庭や地域，小学校・中学校に本校が取り組んでいることをもっと発信して，外部との連携をより充実すべき。高校単独でで

きることはこの時代限られている。
・**業務・行事ともやることが多く，質と量のバランスが良くない**。以前の学校評価においても多忙に関することは上がっているので，講演会に関しても指摘があったように，何かしらの手立てを実行すべき。

【安心・安全を守る】

（成果）
・いじめが発生しなかったことは大変良かった。大きな事故等もなくよかった。
・不審者侵入が１件あったが，おおきな学校事故や違反もなかった**（複数回答あり）**
・教育相談の実施により，生徒一人一人の悩み等を把握・共有できている。
・安全指導や避難訓練等を通して，危機管理意識が育成されている。**（複数回答あり）**

（課題）
・**人権教育の充実**
・**教育相談のさらなる充実**を図る。**（複数回答あり）**
・いろんな人が，足をはこんで，様々なところを見て回り，情報共有する。専門家に見てもらう。
・不安定な生徒もいるので，心のケアと保護者との連携を密にしていく必要がある。
・他校種と連携した保健指導の充実をより一層行う必要がある。
・フェリーや飛行機に乗る際や島外で過ごす際の防災意識も必要ではないか。
・設備面で校内でも危険な箇所がある。予算の面もあるが早急な対応が必要。
・人間関係が狭く固定されているため，こじれると指導が難しい。
・島内ならではのルールがあるように思うので，区別をつけさせる
・島外の人間の校舎内への侵入など，突発的な事案にはまだ対応できない。最後に自分の身を守るのは生徒自身であることを常日頃から言い聞かせるべきか。
・危機管理意識の醸成と呼べるほど，生徒の意識は固くないと思う。
・**時間に余裕を持った登校**，交通ルールを改めて確認。時間ギリギリの生徒が危険。
・生徒から保護者に伝わらないこともあるため，保護者に直接伝わるあんしん安全メールを活用する場面を増やす。また，この３学期から中学校が欠席連絡を電子化（メール？）したようなので，高校も電子化をすすめ，事務負担を軽減していく。

【開かれた学校づくり】

（成果）
・**職員が地域行事へ参加したり，ゆんぬを通して関わったりと，地域と連携**した学校づくりができていた。**（複数回答あり）**
・ゆんぬのサポートや，島外の方との交流の場の設定など，学校だけでは限界のあることを地域の方にしていただいた。地域と連携した学校づくりができていた。
・ゆんぬの発表会や，文化祭，体育祭に多くの方が来られたこと。
・学年通信等やホームページなどで情報発信ができている。
・教職員の連携により，学校ホームページの更新はこまめにできている。
・行事や成果など，迅速に幅広く公開されていると思う。
・図書館開放や学校見学の随時受け入れなど，地域の方が学校の様子を知る機会が多く見られる。ゆんぬの発表会で地域の方が見学に来られたのはその成果だと思う。
・**地域との連携が十分にとれていて驚かされる**。

（課題）
・授業見学や学校の開放をしているが，生徒から嫌がられるかもと躊躇したり，仕事の都合で行けなかったりということもあるので，オンライン上で授業の様子やグループ発表などの様子を一部公開してみてはどうか。
・**地域の方々との連携ができている反面，保護者との連携は十分ではなかった**。年１回の三者面談や学級PTAだけでしかお会いしない保護者も多く，もっとコミュニケーションの機会を増やせればよかった。
・ボランティアや地域行事等への参加も積極的に行っていきたい。**（複数回答あり）**
・与論高校のホームページのアクセス数が分かるようにする。
・ブログ記事の更新回数は県下でもかなり多いほうだと思うが，どれだけアクセス件数があるのか。島民・県民だけでなく，県外の人たちにふるさと留学等をアピールするためにブログという手段が適しているのかは検討の余地があると思う。

・素晴らしい活動に取り組んでいるが，島外への広報活動が少ないように感じる。
・地域の声をもっとじっくりと聞いて，より一層地域に根ざした学校運営を目指す。
・総探以外でどのように地域と関わるか
・開かれているが，それが家庭や地域に伝わっているかというと疑問だ。
・令和５年度は月行事予定が更新されていなかったので，行事予定から学校の活動を知ってもらう。